

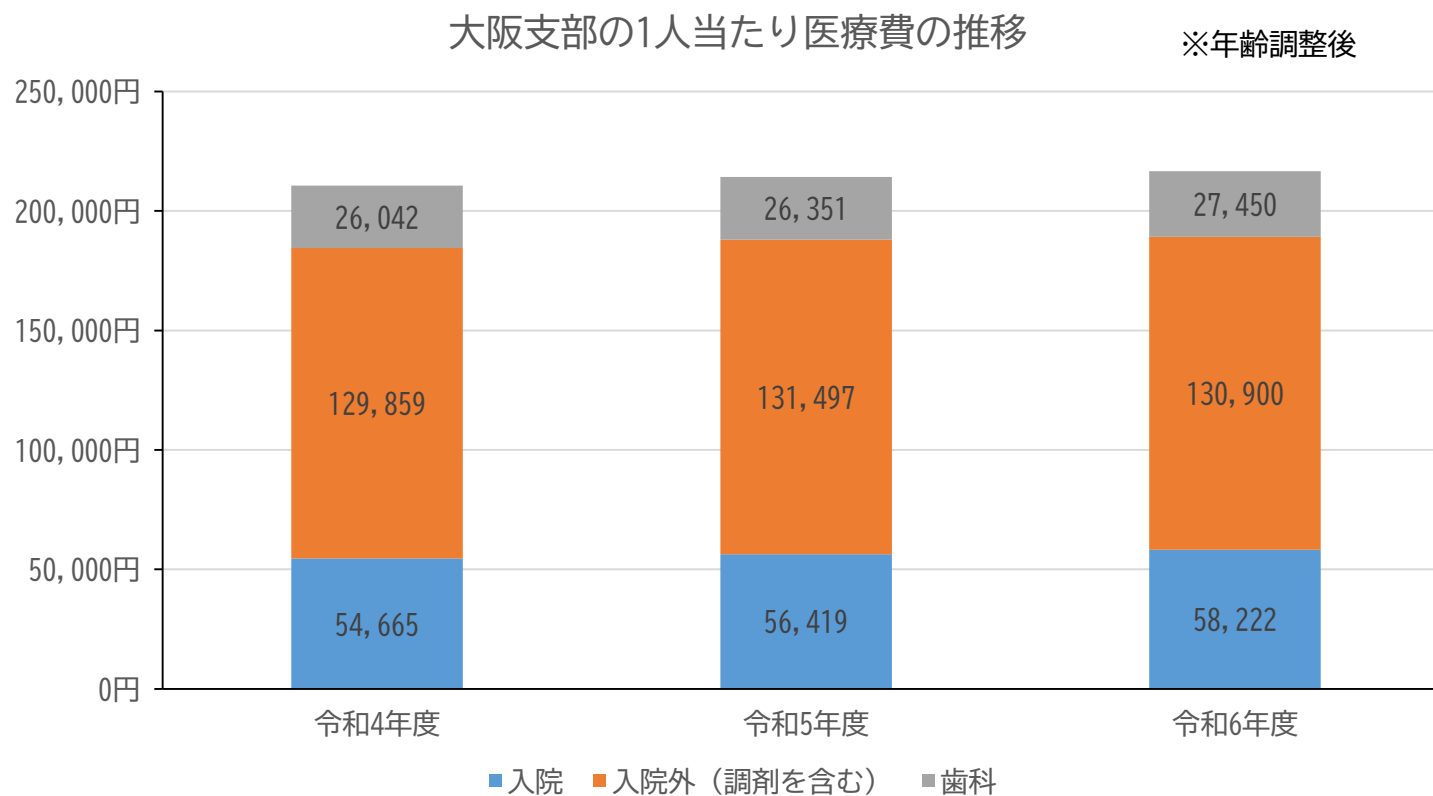
令和6年度大阪支部医療費分析



広報部鳥、けんぽん
©2018、協会けんぽ大阪支部

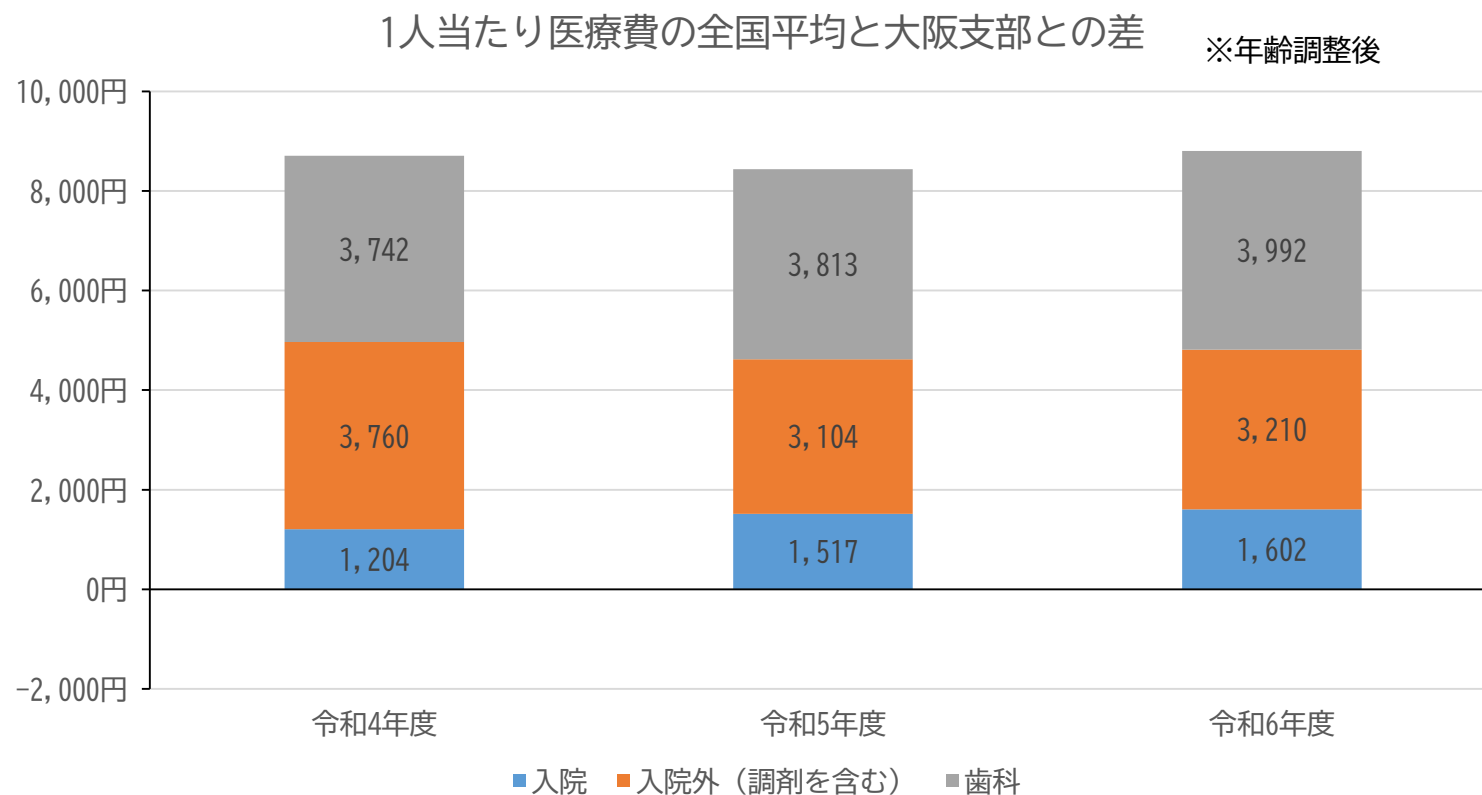
1. 大阪支部の1人当たり医療費の推移

- 令和6年度1人当たり医療費は216,572円で、前年度より2,305円増加した。
- 内訳は、入院が58,222円(対前年度比+1,803円)、入院外(調剤を含む)が130,900円(対前年度比-597円)、歯科が27,450円(対前年度比+1,099円)となっている。



2. 1人当たり医療費の全国平均と大阪支部との差

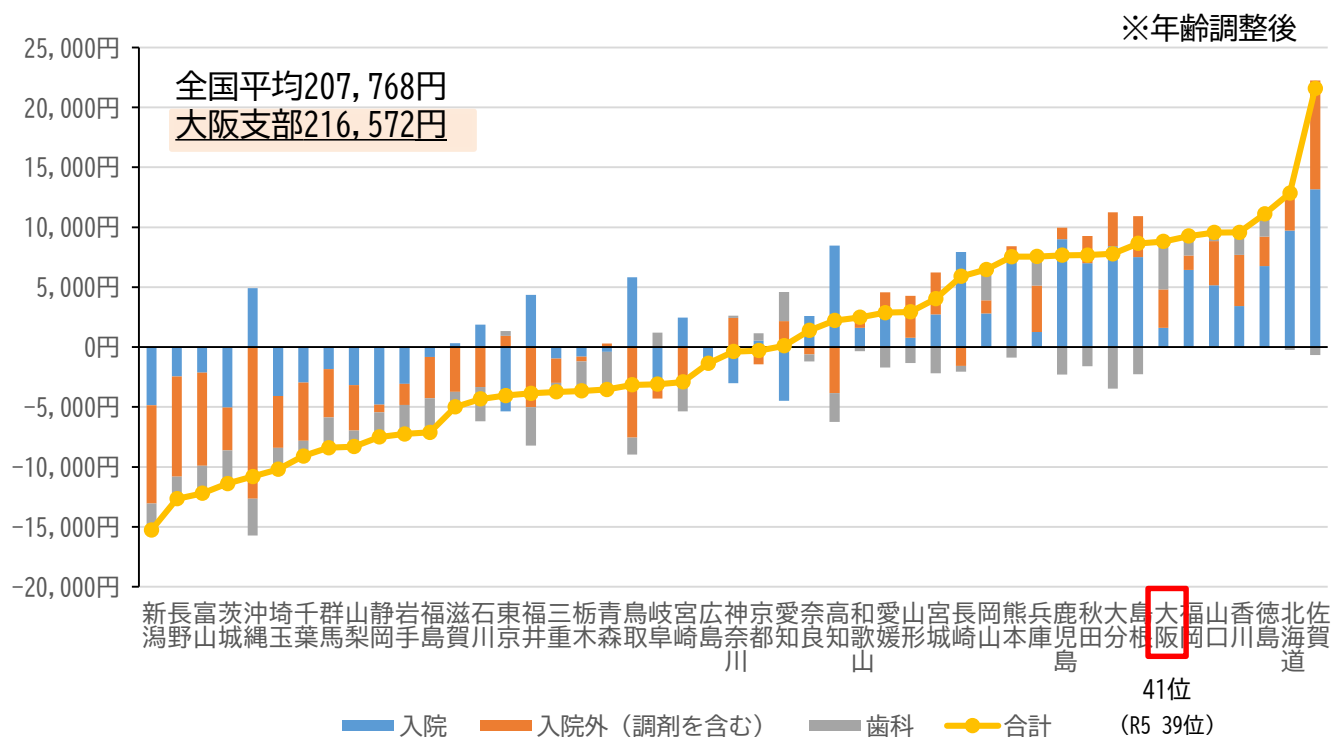
- 1人当たり医療費を全国平均と比較すると、その差は拡大傾向にある。
- 医療費は全体的に全国平均より高い状況が続いており、特に歯科医療費が高い状況が続いている。



3. 支部別の令和6年度1人当たり医療費(全国平均との差)

- 令和6年度の加入者1人当たり医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は診療種別(入院・入院外・歯科)すべてにおいて、全国平均との差がプラス傾向にある。

支部別の加入者1人当たり医療費 (全国平均との差)



1人当たり入院医療費が高い支部		
1	佐賀	69,778円
2	北海道	66,348円
3	鹿児島	65,629円
4	高知	65,086円
5	大分	65,025円
11	福岡	63,054円
24	大阪	58,222円
43	愛知	52,128円
47	東京	51,250円
全国		56,620円

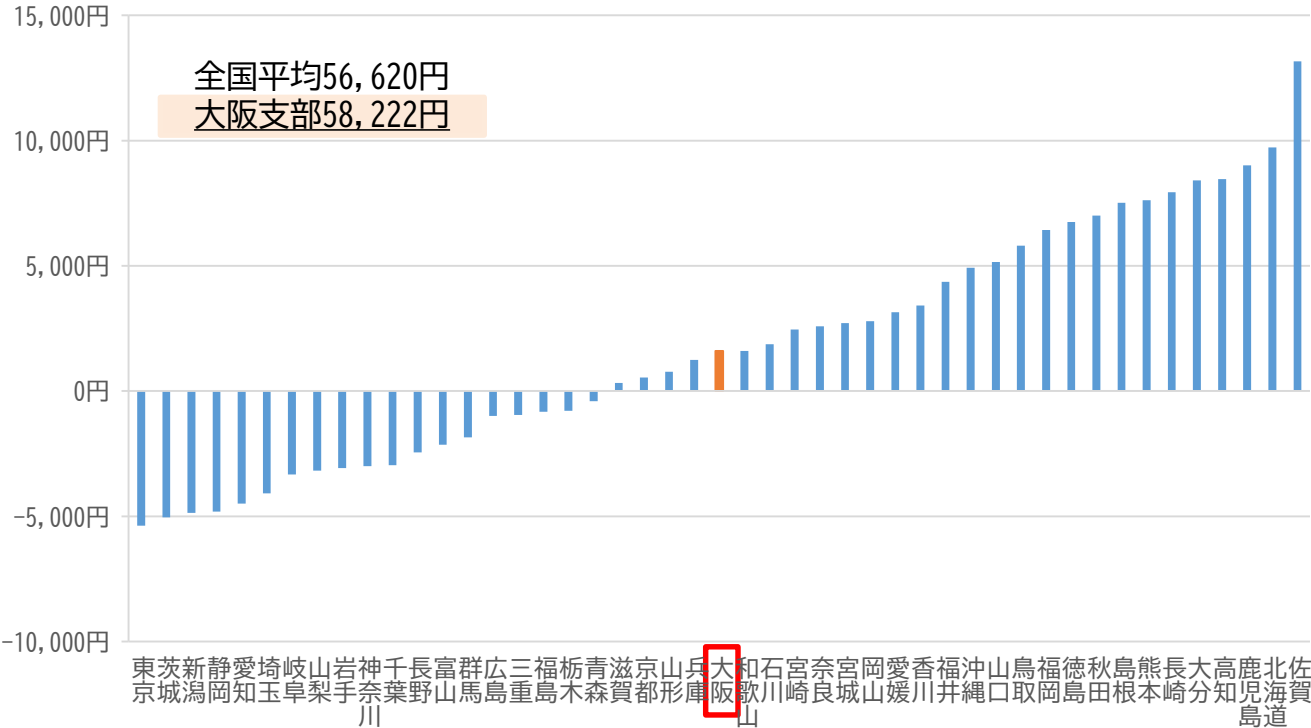
1人当たり入院外医療費が高い支部		
1	佐賀	136,764円
2	香川	131,974円
3	兵庫	131,558円
4	山口	131,378円
8	北海道	131,039円
9	大阪	130,900円
14	愛知	129,857円
17	福岡	128,881円
20	東京	128,629円
47	沖縄	115,025円
全国		127,690円

1人当たり歯科医療費が高い支部		
1	大阪	27,450円
2	岡山	26,015円
3	兵庫	25,887円
4	愛知	25,881円
5	徳島	25,345円
7	福岡	25,090円
11	東京	23,843円
14	北海道	23,215円
47	大分	20,000円
全国		23,458円

4. 支部別の令和6年度1人当たり入院医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和6年度の加入者1人当たり入院医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は、24位で全国平均より1,602円高い。
- 入院受診率、1件当たり入院日数は低い、1日当たり入院医療費が全国4位で高い。

支部別の加入者1人当たり入院医療費（全国平均との差）



24位
(R5 25位)

入院受診率（件／千人）が高い支部		
1	大分	134.5
2	佐賀	126.8
3	長崎	123.0
4	北海道	118.5
5	熊本	118.3
14	福岡	106.5
34	大阪	92.4
44	愛知	84.7
47	東京	80.7
全国平均		94.6

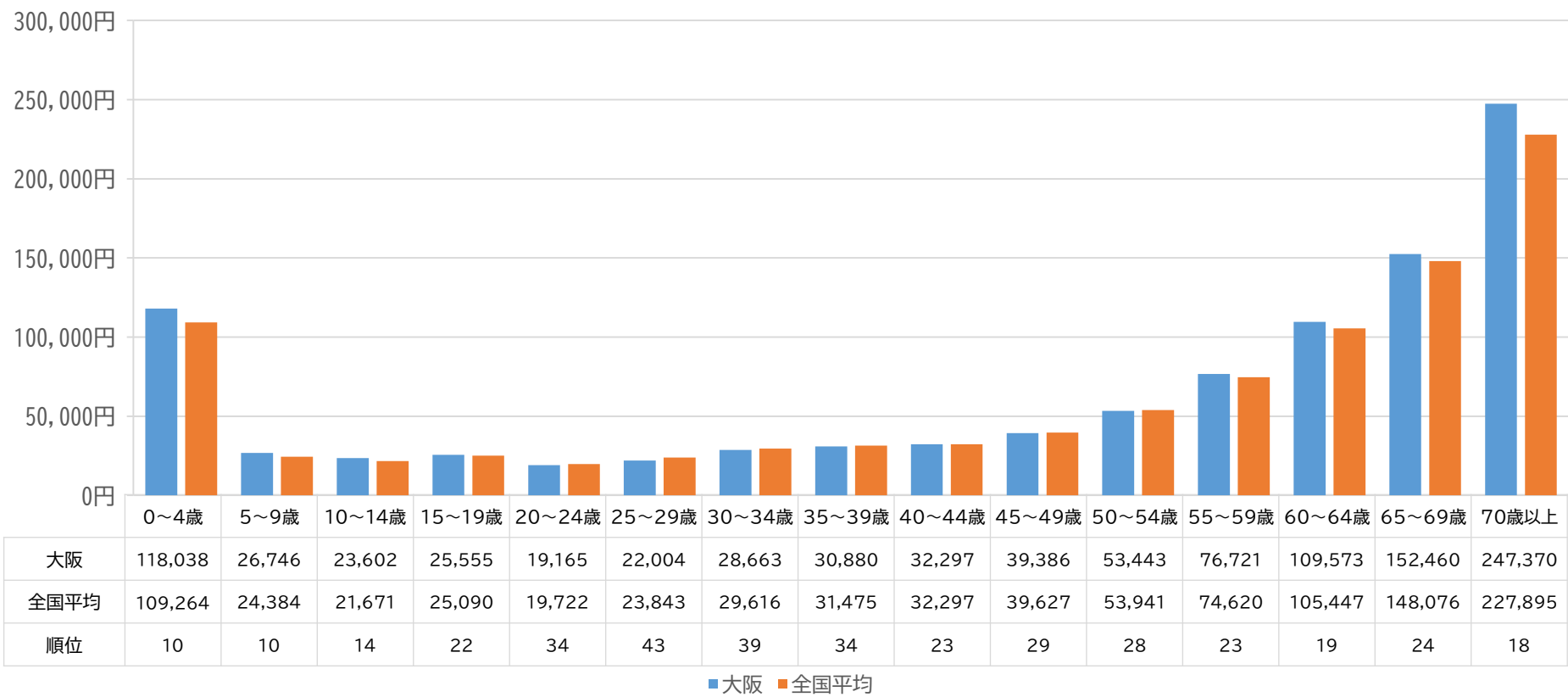
1件当たり入院日数が多い支部		
1	佐賀	10.47
2	山口	10.4
3	秋田	10.34
4	青森	10.29
5	熊本	10.21
20	福岡	9.57
34	北海道	9.15
45	大阪	8.57
46	東京	8.45
47	愛知	8.4
全国平均		9.15

1日当たり入院医療費が高い支部		
1	京都	71674.5
2	東京	71601.3
3	神奈川	71250.4
4	大阪	70455.9
5	愛知	69724.8
12	北海道	66184.4
30	福岡	60958.7
47	熊本	54288.8
全国平均		65392.1

5. 大阪支部の令和6年度年齢階級別1人当たり入院医療費

- 加入者1人あたり入院医療費を年齢階級別にみると、0～19歳および55歳以上の年代において全国平均を上回っている。特に0歳～4歳、70歳以上の年代において平均との乖離が大きい。

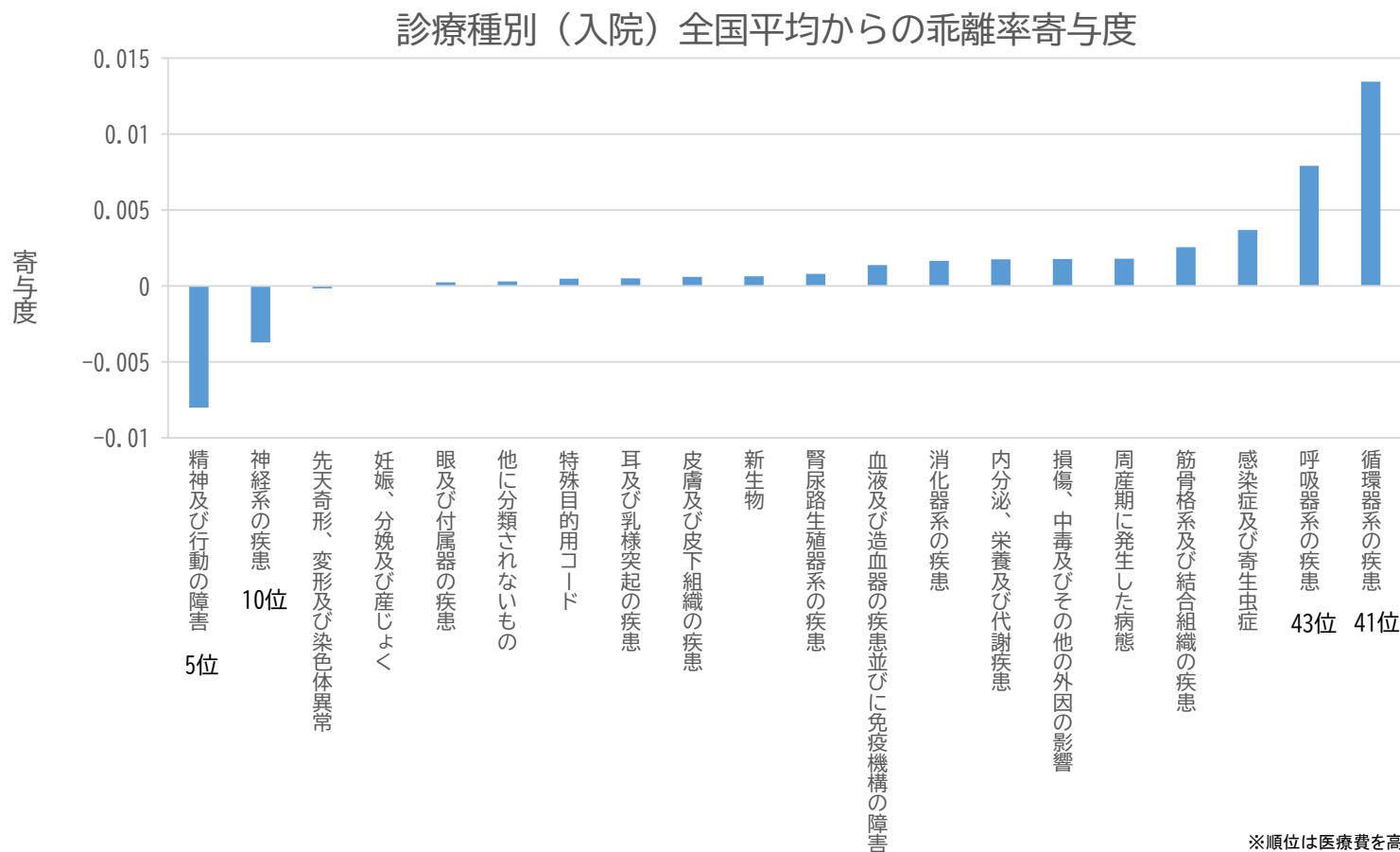
加入者1人当たり入院医療費（年齢階級別）



データ（R7.9.9更新）

6. 大阪支部の令和6年度疾病分類別の乖離率寄与度(入院)

- 診療種別(入院)全国平均からの乖離率寄与度をみると、循環器系の疾患および呼吸器系の疾患において全国平均からのプラスの寄与度が大きく(医療費が高い)、精神及び行動の障害においてマイナスの寄与度が大きく(医療費が低い)なっている。

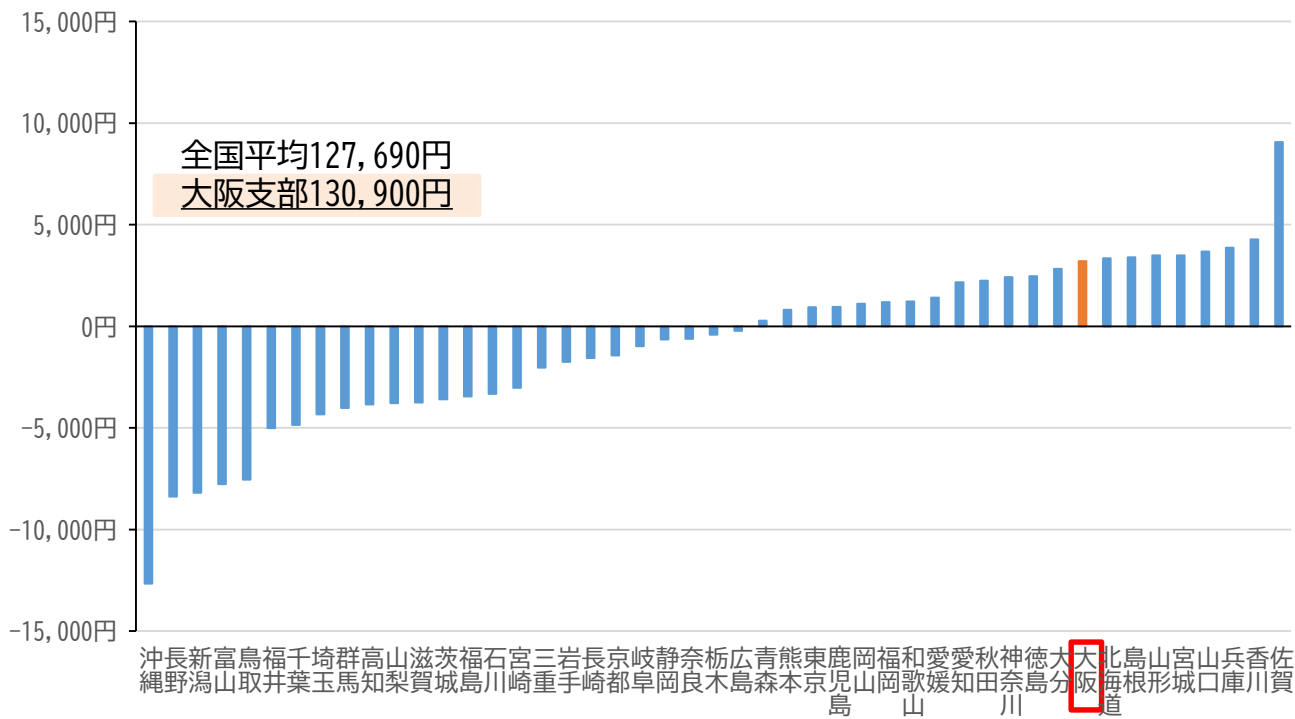


※順位は医療費を高める寄与度が低いほど高い

7. 支部別の令和6年度1人当たり入院外医療費と医療費の3要素(全国平均との差)

- 令和6年度の加入者1人当たり入院外医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は、39位で全国平均より3,210円高い。
- 入院外受診率、1日当たり入院外医療費は全国平均を下回るものの、1件当たり入院外日数が全国7位で多い。

支部別の加入者1人当たり入院外医療費（全国平均との差）



入院外受診率（件／千人）が高い支部		
1	山形	7655.5
2	佐賀	7493.7
3	和歌山	7442.3
4	秋田	7357.8
5	山口	7340.3
18	福岡	7004.9
28	愛知	6851.6
32	大阪	6780.8
35	東京	6707.6
41	北海道	6478.8
47	沖縄	5900.4
全国平均		6799.3

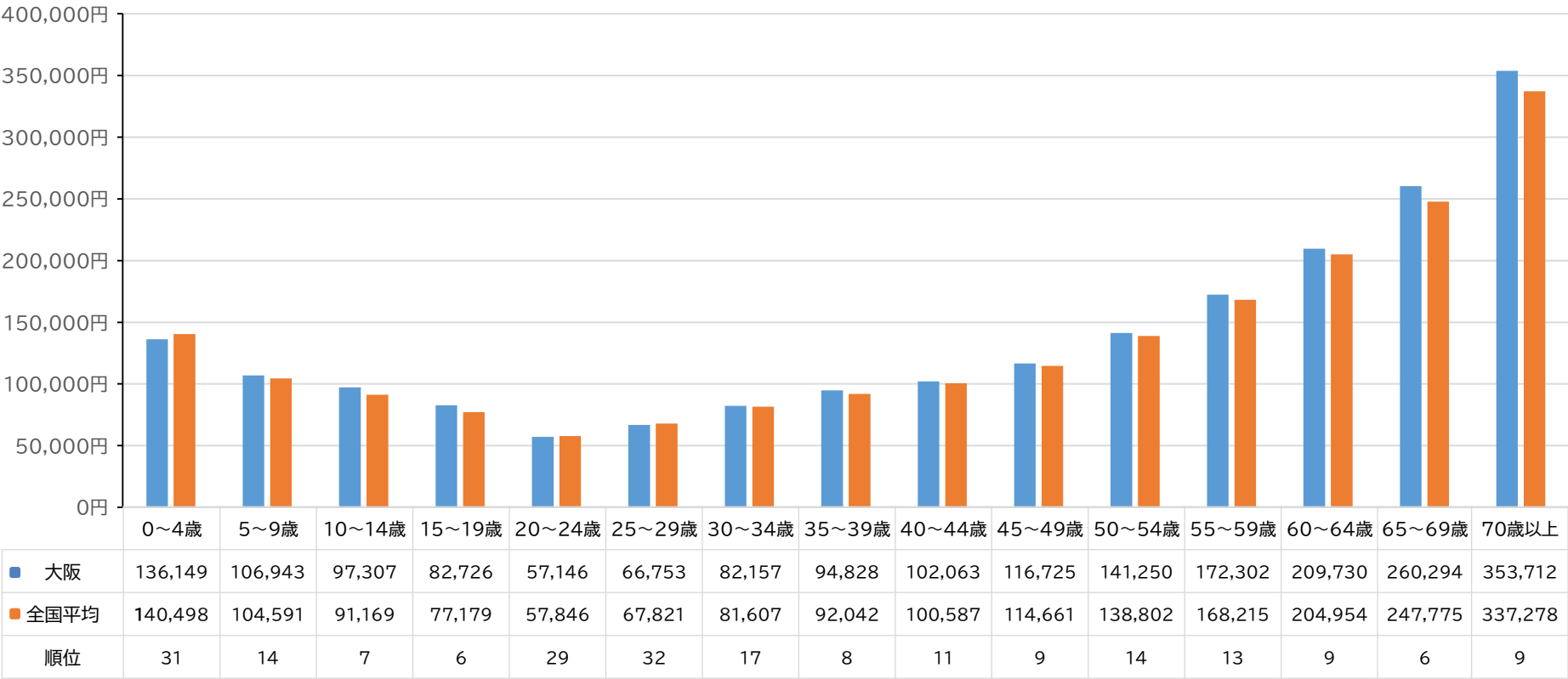
1件当たり入院外日数が多い支部		
1	佐賀	1.43
2	福岡	1.40
3	岐阜	1.38
4	愛知	1.38
5	香川	1.38
7	大阪	1.37
29	東京	1.34
38	北海道	1.31
47	新潟	1.29
全国平均		1.35

1日当たり入院外医療費が高い支部		
1	北海道	16259.2
2	秋田	14998.2
3	岩手	14858.0
4	宮城	14801.4
5	千葉	14717.9
23	東京	13886.9
28	大阪	13638.6
41	愛知	13329.3
46	福岡	13001.1
47	和歌山	12945.2
全国平均		13904.2

8. 大阪支部の令和5年度年齢階級別1人当たり入院外医療費

- 加入者1人あたり入院外医療費を年齢階級別にみると、0～4歳および20歳～29歳を除くすべての年代において全国平均を上回っている。
- 特に65歳以上の年代において平均との乖離が大きい。

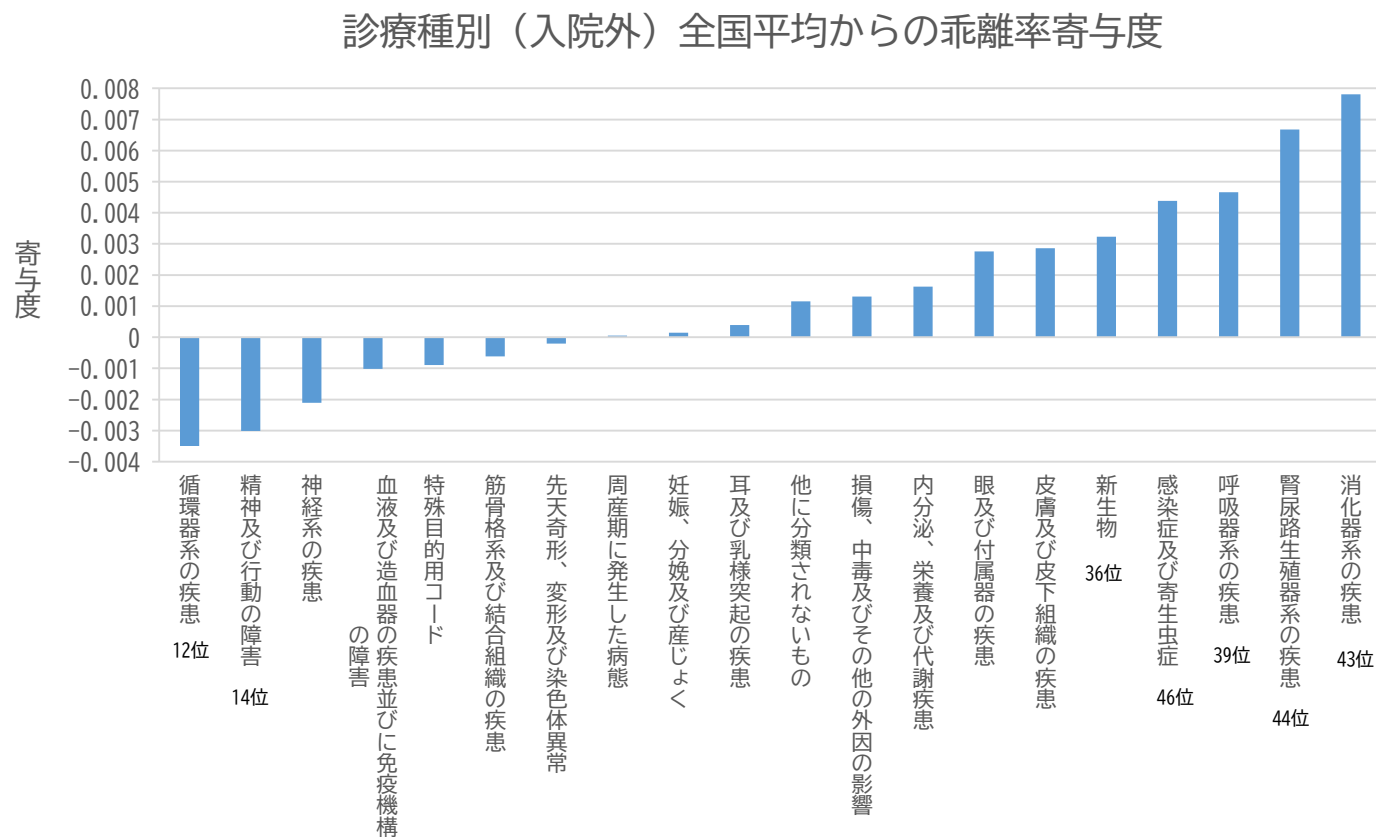
加入者1人当たり入院外医療費(年齢階級別)



データ（R7.9.9更新）

9. 大阪支部の令和6年度疾病分類別の乖離率寄与度(入院外)

- 診療種別(入院外)全国平均からの乖離率寄与度をみると、消化器系の疾患、腎尿路生殖器系の疾患において全国平均からのプラスの寄与度が大きく(医療費が高い)、循環器系の疾患、精神及び行動の障害においてマイナスの寄与度が大きく(医療費が低い)なっている。



※順位は医療費を高める寄与度が低いほど高い

- 令和6年度の加入者1人当たり歯科医療費の全国平均との差を都道府県別にみると、大阪支部は、47位で全国平均より3,992円高く、46位の岡山よりも1,435円高い。
- 歯科受診率、1日当たり歯科医療費において全国平均を上回っている。

全国平均23,458円
大阪支部27,450円

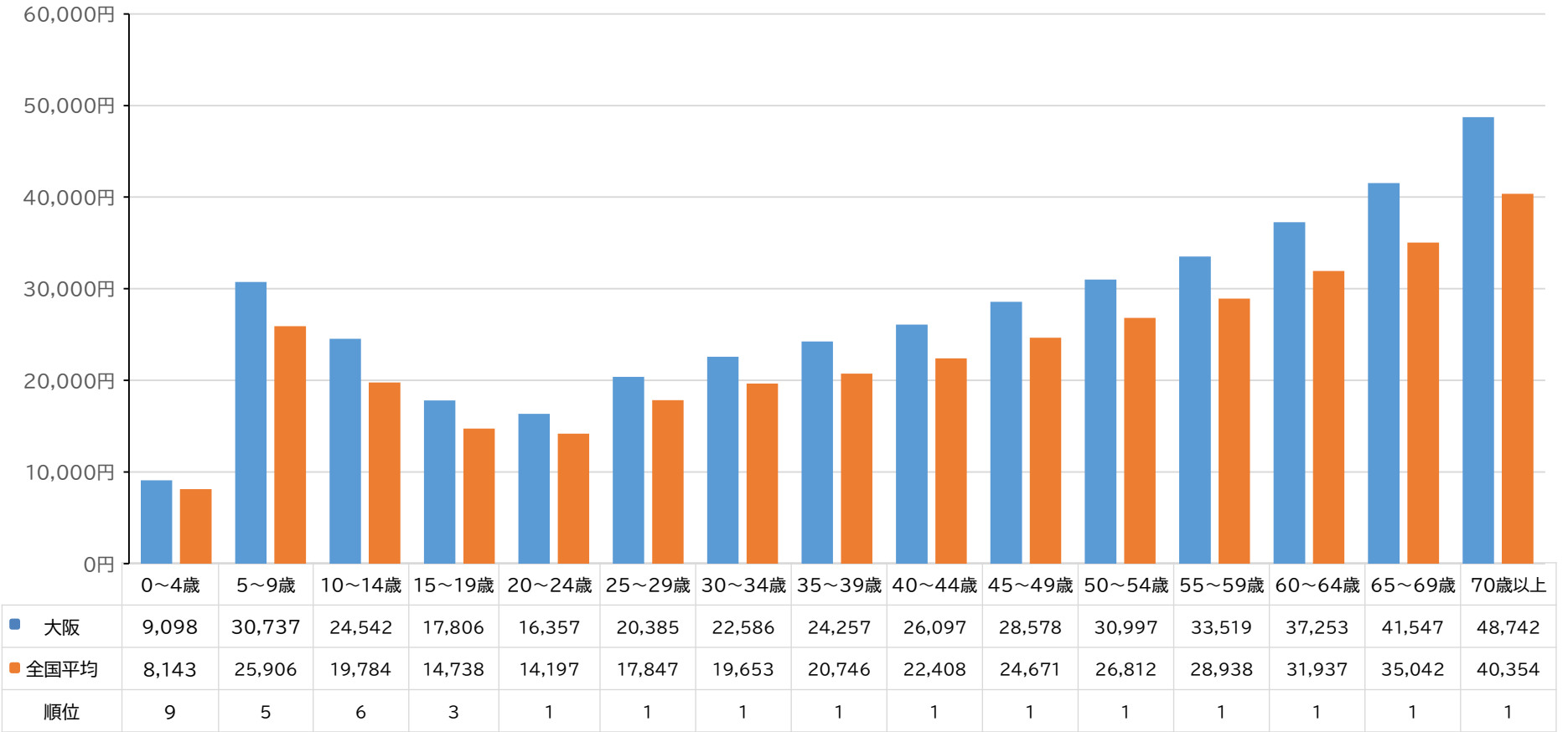
47位
(R5 47位)

1日当たり歯科医療費が高い支部		
1	岡山	9245.9
2	大阪	9093.6
3	秋田	9014.7
4	兵庫	8948.2
5	香川	8909.1
7	北海道	8855.6
8	愛知	8844.2
23	東京	8385.5
31	福岡	8290.8
47	鹿児島	7590.0
全国平均		8485.5

11. 大阪支部の令和6年度年齢階級別1人当たり歯科医療費

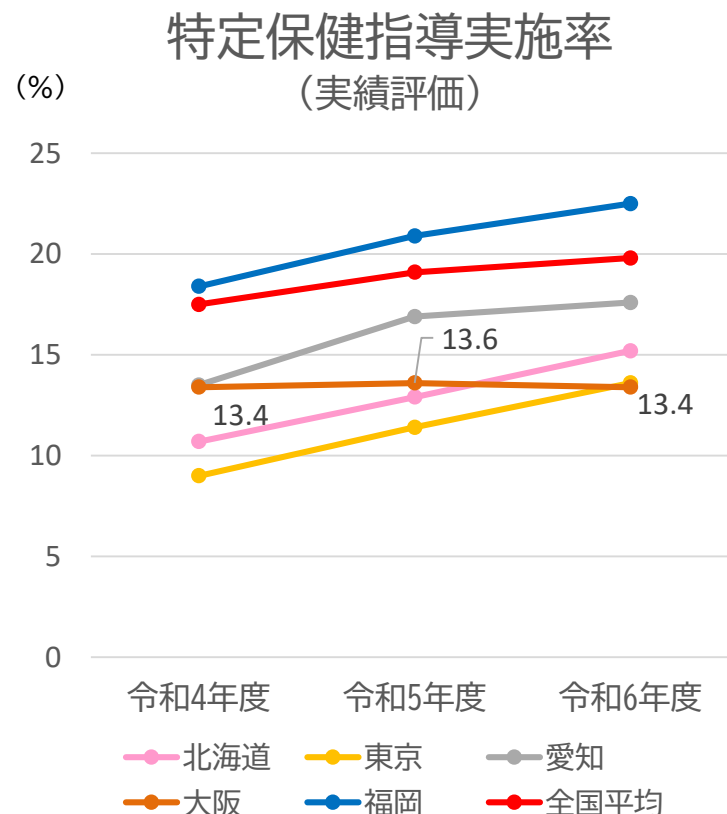
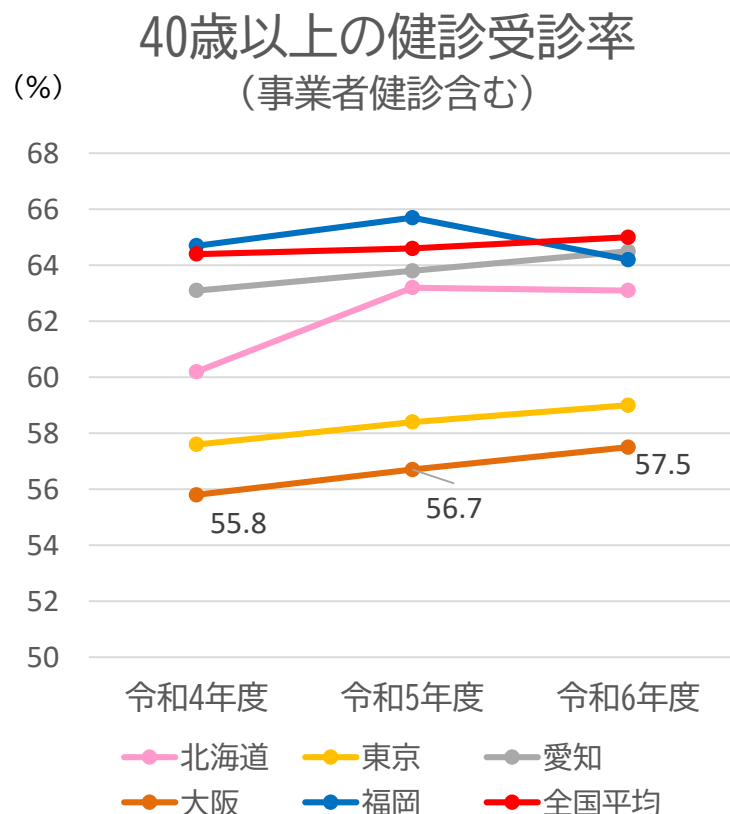
- 加入者1人あたりの歯科医療費を年齢階級別にみると、すべての年代において全国平均を上回っている。
- 20歳以上の年代はすべて全国順位1位であり、特に60歳以上になると、全国平均との乖離が5,000円以上となる。

加入者1人当たり歯科医療費(年齢階級別)



12.40歳以上の健診受診率・特定保健指導実施率

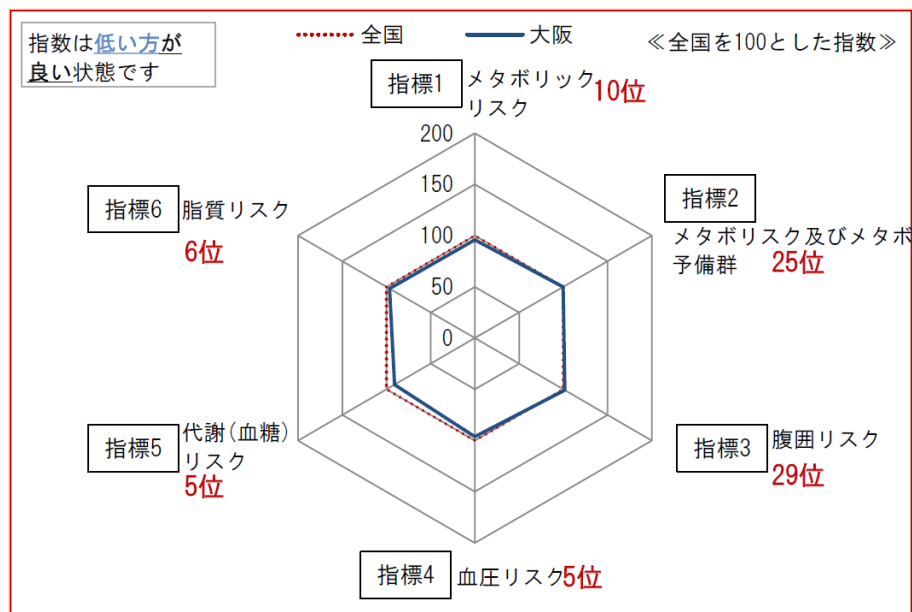
- 大阪支部の40歳以上の健診受診率をみると、上昇傾向にあるものの全国平均を大きく下回っており、5大支部では一番低い57.5%となっている。
- 大阪支部の特定保健指導実施率は、全国平均を下回っており、5大支部では一番低い13.4%となっている。



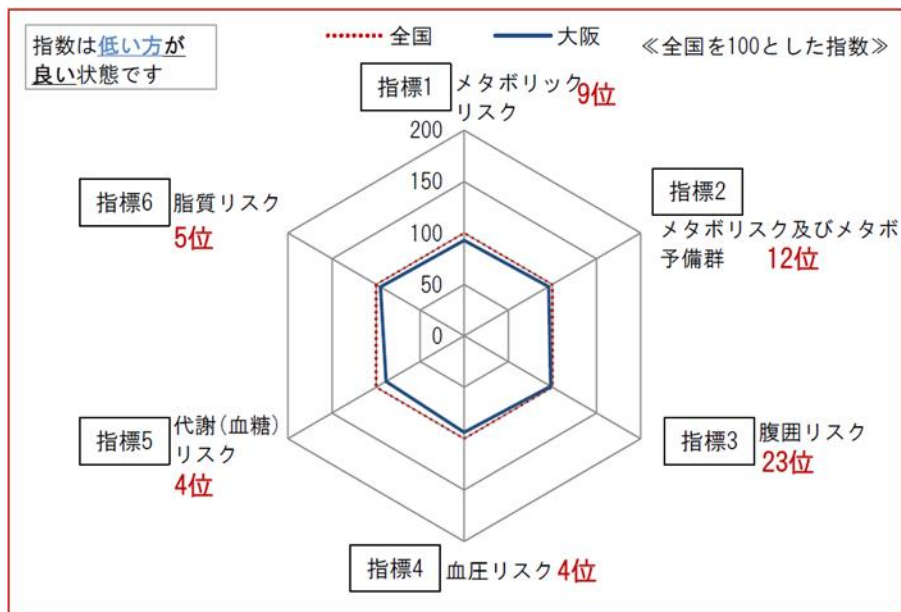
13. 大阪支部の各種リスク該当者割合等レーダーチャート

- 男性の各種リスク該当者割合をみると、腹囲リスクが全国平均と比べリスクが高い(悪い)状態である。
- 女性の各種リスク該当者割合をみると、すべての指標において、全国平均と比べリスクが低い(良い)状態である。

各種リスク該当者割合【全国比、男性】



各種リスク該当者割合【全国比、女性】



順位は1位が最もリスクが低い(良い)状態です

出典：支部別スコアリングレポート「大阪支部」令和6年度

【各種リスク該当者の判定基準】

○メタボリックリスク：腹囲リスク該当かつ血圧、代謝、脂質のうち2つ以上のリスクに該当する者

○メタボリック予備群：腹囲リスク該当かつ血圧、代謝、脂質のうち1つのリスクに該当する者

○腹囲リスク：男性85cm以上、女性90cm以上（内臓脂肪面積100cm²以上を優先）

○血圧リスク：収縮期130mmHg以上 又は 拡張期85mmHg以上 又は 服薬

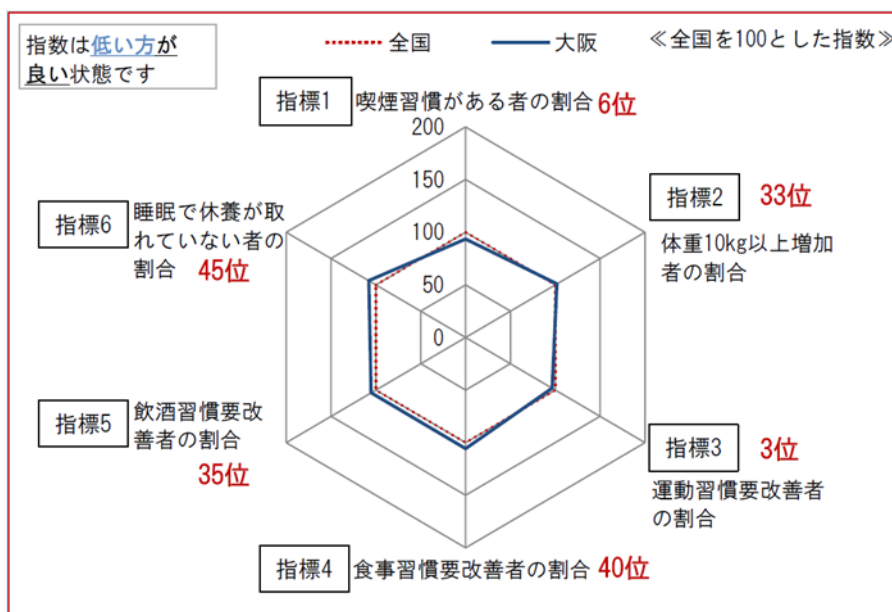
○代謝(血糖)リスク：空腹時血糖110mg/dl以上 又は 空腹時血糖未測定かつHbA1c6.0%以上 又は 服薬

○脂質リスク：中性脂肪150mg/dl以上 又は 随時中性脂肪175mg/dl以上 又は HDLコレステロール40mg/dl未満 又は 服薬

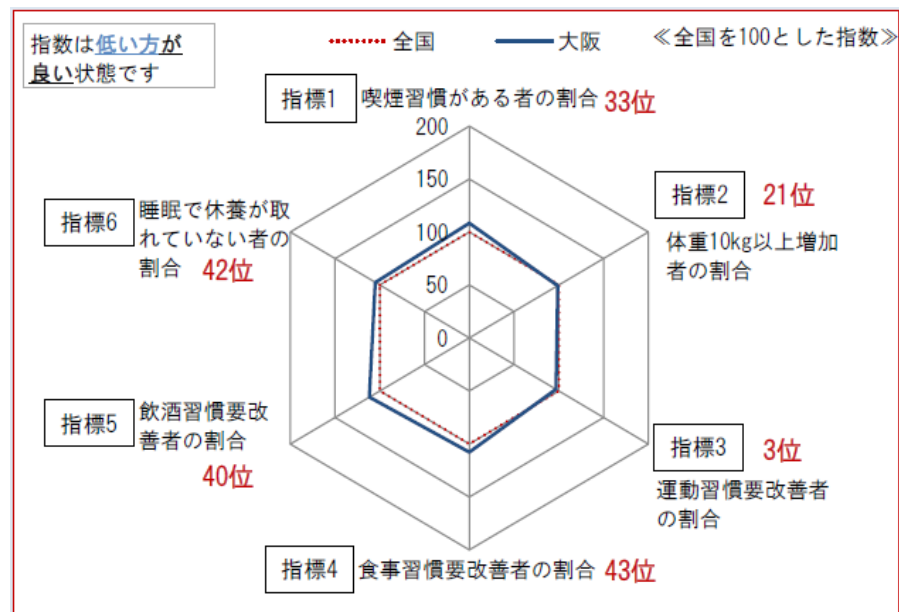
14. 大阪支部の各種リスク該当者割合等レーダーチャート

- 男性の生活習慣病リスク保有者割合をみると、睡眠、体重増加、飲酒及び食事習慣において、全国平均と比べリスクが高い(悪い)状態である。
- 女性の生活習慣病リスク保有者割合をみると、喫煙、睡眠、飲酒及び食事習慣において全国平均と比べリスクが高い(悪い)状態である。

生活習慣病リスク保有者割合【全国比、男性】



生活習慣病リスク保有者割合【全国比、女性】



順位は1位が最もリスクが低い(良い)状態です

出典：支部別スコアリングレポート「大阪支部」令和6年度

【生活習慣要改善者の判定基準】

- 喫煙習慣がある者：「現在、たばこを習慣的に吸っている」に「はい」と回答した者の割合
- 体重 10kg 以上増加者：「20 歳の時の体重から 10kg 以上増加している」に「はい」と回答した者の割合
- 運動習慣要改善者：「1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動を週 2 日以上 1 年以上実施している」「日常生活において歩行又は同等の身体活動を 1 日 1 時間以上実施」「ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速い」の 3 問中 2 問以上に「はい」と回答した者の割合
- 食事習慣要改善者：「人と比較して食べる速度が速い」「就寝前の 2 時間以内に夕食をとることが週に 3 回以上ある」「朝昼夜の 3 食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか」「朝食を抜くことが週に 3 回以上ある」の 4 問中 2 問以上に「はい(速い・毎日)」と回答した者の割合
- 飲酒習慣要改善者：「お酒を飲む頻度」「飲酒日の1日当たりの飲酒量」に、男性は「週5日以上+2合以上」又は「週3日以上+3合以上」又は「月1日以上+5合以上」と回答(毎日2合以上又は時々3合以上)した者の割合※ ※2023年度以前(第3期)は同じ基準で集計できないため空欄
- 睡眠で休養が取れていない者：「睡眠で休養が十分とれている」に「いいえ」と回答した者の割合

15. 大阪支部の課題

令和6年度のデータを中心とした分析や戦略的保険者機能強化を踏まえた、大阪支部の重点的に取り組む課題は以下の通り。大阪支部では、今後も加入者の健康増進を図り、医療費適正化(およびインセンティブ制度における順位向上)に向けた取り組みを推進していく。

問題点	適正化へ向けたこれまでの取り組み(例)
健診の実施率が全国平均を大きく下回る。(健診の必要性の理解が低い)	・健診機会の拡大(集団健診の実施・新規健診機関の契約) ・行政機関や関係団体と連携した事業者健診データの取得 ・自治体と連携し、特定健診とがん検診を同時実施
特定保健指導の実施率が全国平均を大きく下回る。	・大阪支部直営の保健指導者による訪問または遠隔による特定保健指導を実施 ・大規模事業所健診会場における直営特定保健指導の実施 ・外部委託機関を活用した特定保健指導の利用案内の拡大 ・健診施設内・検診車会場での外部委託機関による遠隔保健指導の実施 ・「腹囲2cmかつ体重2kg減」を意識した特定保健指導実施とスキル向上のための研修や勉強会の実施
歯科医療費が全国平均より高い。	・R6年度より大阪府の歯科医療費について、大阪府と共同分析を大阪大学に委託し実施 - 東京都・神奈川県・大阪府の3都府県を比較して、全レセプトの中で8割以上を占める歯周炎・慢性歯周炎の病名、上位5%を除く集団についての分析を行った
睡眠・飲酒・食事・喫煙(女性のみ)における生活習慣要改善者の割合が全国平均より高い。	・外部委託による身体活動・運動、食事・栄養、メンタルヘルス等の健康講座の実施 ・禁煙ポスターを作成し、事業所(業態別)カルテに同封して配布 ・宣言事業所専用WEBサイトにて毎月健康情報等を発信